

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 8月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	0170202576		
法人名	有限会社 ティージー・サポート		
事業所名	グループホーム どうぶはうす		
所在地	札幌市東区北43条東9丁目1-6 (電話) 011-751-3200		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年8月25日	評価確定日	平成20年9月25日

【情報提供票より】 (20年8月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 10月 15日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤	16人 非常勤 1人 常勤換算13人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,000円	その他の経費(月額)	水光熱費25,000円 (11～3月) 7,000円
敷金	有 (82,000円) ・ 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 ()円	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 450円
	夕食	500円	おやつ 50円
	または1日当たり 1,300円		

(4) 利用者の概要 (8月 7日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	6名	要介護2	5名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	61歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みよか内科クリニック 恵佑会東病院 水谷外科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成17年開設の当ホームは、運営法人の既設ホームを研究し、利用者の暮らしやすさを重視した建物で、明るく快適な空間を提供している。ホームの立地は住宅街に位置しながら公園、公共交通機関や各種商業施設などに近く利便性に優れている。職員は介護に熱心に取り組む管理者のもと、利用者とともに支え合う関係を大事にしながらケアサービスに努め、家族から高い信頼と評価を得ている。まだ地域との連携は十分ではないが、運営理念で地域社会とのつながりを大切にしており、地域密着を目指して取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回指摘された職員の外部研修及びカロリー計算は実施中であり、ほかの業者との交流は協議しながら、今年実施を予定しているなど、課題の改善に積極的に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価表は職員全員に配付され、各自が内容を検討して記入し、管理者がまとめている。評価結果は外部評価とともに職員のミーティングで話し合われ、改善に向けて取り組んでいる。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、ホームが取り組んでいるリスクマネジメント、行事内容、自己評価や外部評価などの説明と意見交換が行なわれている。会議でだされた課題などは職員のミーティングで検討し、随時改善に取り組んでいる。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの意見や苦情は、苦情相談窓口やご意見箱などでいただいているが、家族来訪時にも管理者や職員が把握するようにしている。現時点では家族からの要望にとどまっているが、ミーティングなどで話し合いをしながら対応している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、管理者は町内会班長も務めている。町内会行事にも参加しながら、地域との連携強化に努めているが、まだ地域の理解と連携は十分でないため、ホーム便りの回覧などで地域との交流を深めるよう努力している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設当初から、運営理念に「地域とのつながり」を大切にする内容を盛り込んでおり、この理念に基づいて、地域との支え合う関係を築くよう努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内に掲示してあるほか、職員のネームプレートの裏面に記載され、職員は常に理念を意識しながら、利用者のケアサービスに活かすよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は町内会班長を務め、各種行事へ参加するとともに、町内会回覧板にホーム便りを掲載するなど、地域の一員としての努力を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は職員全員に配られ、各自が内容を検討の上、管理者がまとめている。また、作成した自己評価や外部評価をミーティングで協議し、改善が必要な事項はホーム運営に活かすよう取り組んでいる。		

札幌市東区 グループホーム とうぶはうす

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、包括支援センターや町内会の代表の方々をメンバーとして開催され、ホーム運営状況報告と積極的な意見交換が行なわれている。しかし、開催回数や参加者がやや少ないため、今後の改善が課題となっている。	○	会議開催回数をできるだけ多くし（原則2ヵ月毎）、メンバーも町内会や家族の方々を複数名、そのほかに教育関係者、民生委員などの参加する取り組みを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームは行政担当者と積極的に接触しており、介護保険制度などの情報収集や運営上の相談をしている。また、行政担当者がホームに来訪する機会もあり、行政との連携体制が出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の方々への報告は、定期的に利用者の「ふれあい日誌（介護記録）」や「ホーム便り」を送付している。また、家族の方々がホームを訪れた際、職員が利用者の暮らしぶりや健康状況を詳細に説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームは苦情相談窓口の明示、ご意見箱の設置など苦情処理体制が整備されている。現在までに特に苦情は発生していないが、要望などについてはミーティングなどで話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、法人が運営する介護関連施設が数カ所あるが、職員の異動はできるだけ最小限に抑えている。異動や離職があった場合は、職員が細心の注意を払いながら見守り、利用者の不安を無くすよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の人材育成のため、ミーティングやフロア会議での勉強会が随時行なわれている。また、外部研修も現状では回数は少ないが、できるだけ参加の機会を増やすように努力しており、有料のセミナーはホームが負担している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は管理者会議に参加しながら、ほかのグループホームとの情報交換などの交流がある。また、ほかのホームと相互訪問などによる交流も検討され、今年実施の予定になっている。	○	ほかの業者との交流は、管理者会議での交流にとどまっているが、ほかのホームとの相互訪問も計画があるので、連携を強化しながら是非ともこの計画を実行してサービスの質的向上を図るよう期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム入居前に家族の方々や利用者に見学に来ていただき、納得した上で入居してもらうようにしている。入居当初は利用者の状況に応じて、家族がホームに2～3日宿泊しながら、徐々にホームの雰囲気に馴れるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はホームの規則を優先するのではなく、利用者と同じ家族の一員としての立場で、ともに支え合う関係を大事にしながら、ケアサービスに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の方々から事前に利用者の情報収集を行ない、これを参考にしているが、思いや意向の把握が困難な場合には、急がず時間をかけて接し、利用者を理解するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前に家族の方々の要望や意見を把握し、医療機関とも相談しながら、職員全員が会議で介護計画を検討している。作成した計画書は、家族の方々にも説明し、了解を得てケアサースを実施している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は利用者の担当を特に決めず、全員で対応しているが、介護計画は、3ヵ月毎に職員全員で検討しながら、定期見直しを実施している。利用者に体調変化などが発生した際は、その都度介護計画を変更し、家族の方々に説明している。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームでは利用者の通院、買物ツアー、外食などの外出支援、訪問理美容、駐車場を利用したの運動会など、多種多様な支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関による往診が隔週毎、訪問看護が毎週実施されているが、利用者の希望によるかかりつけ医の利用も自由である。年1回、定期健康診断も実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは重度化の指針を作成しており、入居時に家族の方々に対して説明し、同意を得ている。終末期については、医療機関と相談の上、転院などの方針であり、これらの内容は職員全員の共有となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者へのケアサービスにおいて、誇りやプライバシーを損ねないように十分に注意している。介護記録など各種資料も慎重に管理されているが、面会簿は、ほかの来訪者の名前が分かる様式のため、改善が必要である。	○	面会簿は、ほかの来訪者の名前が分かる一覧制の様式のため、個人情報保護の面から、個別カード式などの改善を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は日々の暮らしで自分の役割りや楽しみごとを持ち、家庭的雰囲気の中でゆったりと過ごしている。職員もホームの決まりを優先することなく、利用者一人ひとりのペースに合わせている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けなど、職員と利用者が一緒に行なっている。食事中は、職員もともに食事を取りながら話しかけたり、食事摂取の補助をしながら、利用者のペースに合わせた支援を行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、居間に入浴者名と順番を表示して、利用者に入浴日が分かるように配慮している。入浴日は原則週2回、午後の時間帯に1日3～4人ですが、入浴を拒む場合は無理せず、翌日に入浴できるように配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の可能な範囲で食事準備や後片付け、菜園の手入れなどの役割を持ち、楽しみごととしてカラオケ大会、ボールや風船を利用したゲームなどを日常的に実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、近くの公園や神社に散歩に出かけたり、ショッピングセンターへの買物ツアー、百合が原公園の花見学、外食など、行事計画による外出支援を積極的に実施している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム正面玄関のみ夜間帯は施錠している。各ユニット入口に施錠はないが、内部から見通しが良いため、利用者の動向が分かるようになっている。		

札幌市東区 グループホーム とうぶはうす

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームは消防署の協力のもと、年2回の避難訓練を実施し、職員は救命救急訓練を交代で受講している。しかし、現在は、ホーム単独の避難訓練にとどまっている。	○	避難訓練はホーム単独で実施されているが、災害発生時には周辺住民の方々の協力体制が不可欠である。今後は、町内会へも働きかけ、夜間想定訓練も含めて、地域住民の方々の協力を得ながら実施することを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量を把握して記録し、体調に応じた支援を行なっている。前回指摘された食事のカロリー計算も定期的に栄養士によって実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの建物は、運営法人が既に開設していたホームを参考にして、より利便性を高めた構造で、共有空間は明るく清潔でゆったりとしている。廊下、居間兼食堂には利用者の写真、利用者が作成した飾りや植物類が置かれ、親しみのある空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、6畳の広さで十分なゆとりがあり、広い窓で明るく清潔感もある。各室には、天井から上下可能な物干し器具が設置され、利便性を高めている。利用者は使い慣れた調度品や仏壇などを持ち込み、居心地よく過ごしている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。